

食料・農業・農村政策審議会企画部会(第113回, 2024年11月20日)に向けた意見

赤松利恵(お茶の水女子大学)

1. 資料の項目立て(目次)について

資料の構成が計画の目的となるであろう「食料安全保障の確保」に向かった構成になっていないと感じました。生産の立場からの順に並べられているのだと思いますが, たとえば, 花きや薬用作物が食料の間に挟まれていたり, 生産環境の整備が農林水産物と同等に並べられたり, しています。

2. 消費, 生産, 輸入, 輸出等の見出しについて

消費, 生産, 輸入, 輸出等カテゴリで, 現状分析や課題が整理されています。上記の1に関係しますが, 基本計画では, 「食料安全保障の確保」を目指した計画が求められると理解しています。「食料安全保障の確保」に向けて, 現段階で輸入は必要だと考えますが, 「輸出」には違和感があります。基本計画では, 「食料安全保障の確保」と整合性のとれた構成になることを期待します。

3. 中食・外食等への取組

野菜の検討の視点の消費(10 ページ)に, 中食・外食等への取組の推進が言及されていました。この点について, 賛同します。調理頻度が減っている現代, 食料自給率を高めるためには, 消費者以上に, 食関連事業者に向けた取組が必要だと感じます。中食・外食だけではなく, 食品製造業全般が関係しますし, 野菜だけではなく, その他の食物も含まれると思います。需要喚起だけではなく, 何が原因で国産が使われないのかを分析し, 対策を取る必要があると考えます。

以上